

『ニョタのふしぎな音楽』出版記念シンポジウム

阪 本 公美子・杉 山 祐 子・坂 井 真紀子・森 裕 翔

シンポジウムについて…阪本公美子

タンザニアを舞台とする絵本『ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで』の出版を記念して、2021年12月19日（日）14:00-15:30に、多文化文化公共圏センター主催、三恵社出版社共催にて、シンポジウムをオンラインにて実施しました。シンポジウムには、34名の参加者のもと、宇都宮大学国際学部2年のLinda Katherine Kaneshiro（司会）、森裕翔（画面共有）、田村望（会場運営・チラシ作成）が運営しました。この絵本は、宇都宮大学ならびに東京外国語大学の学生サポーターとともにクラウド・ファンディング（CF）を通して137人の支援者を得て、出版が実現し、タンザニアに絵本を贈ることが可能となりました。このような応援に感謝を込めて報告を兼ねたシンポジウムを実施しました。

Ready forのCFでは、「アフリカの魅力を伝える絵本をタンザニアの子どもたちに100冊贈りたい」私たちの目標に対して、多くの方々のご支援のおかげで、当初目標としていた冊数を超えて、217冊タンザニアの子どもたちに贈ることが可能となりました。まずは、Next Publishing によるPrint on Demand（POD）を、17冊、主人公や絵かきさんを通してタンザニアに送ることができました。そしてこの度三恵社さんとの出版が実現しました。また、CF後も続けていたPODのアマゾン販売を通して、Book for Twoとして、購入頂いた数をタンザニアに贈る取り組みに対しても、8月・9月・10月と1冊ずつ、合計3冊ご購入頂き、3冊追加でタンザニアに贈ることも可能となりました。

絵本の舞台：タンザニア半乾燥地ドドマ

この絵本の舞台は、タンザニアの首都があるドドマ市から1時間はなれたマジェレコ村です。

この絵本をつくるきっかけ…杉山祐子（弘前大学教授）

この絵本を作るきっかけになったのは、マジェレコ村の調査中、たまたま見つけた大きなザンバラウの木です。ザンバラウは和名をムラサキフトモモと言い、熟した実は甘くて食べられます。

当時、私は村人が新しく始めた野菜作りに興味を持って、野菜畑を回る調査をしていました。でも畑の場所は村の人でないとわかりません。そこでお世話になっていた椿さんにタビアさんを紹介していただき、タビアさんを案内役で野菜畑を回りました。ある日、畑仕事を終えた村人が大きな木から何かをとって食べているところに出会います。それはザンバラウの実でした。

「立派なザンバラウだねえ。最初の苗はどうやって手に入れたの？」椿さんが聞くと、村人は驚いたように答えます。「なに言っているの？あれはあなたが持ってきた木じゃない！」「え、ええ～？」

椿さんが驚いたのには、わけがありました。雨が降らなくて、食べ物ができずに困っている村の人たちを見かねた椿さんは、なんとか人々の助けになりたいと、それまでいろいろな援助をしていたのです。干魃に強い作物を作ればよいんじゃないかと、モロコシを持っていきまし

た。でも鳥の食害がひどくて作れないと、村の人が食べてしまったそうです。鋤を使えば広い畑が耕せるから少しは楽になるかも、と鋤を持っていきましたが、牛を大切にしていたゴゴの人たちは、牛を農作業に使うのはかわいそう、と鋤も売ってしまったと言います。

木を植えたらどうだろう、と苗木もたくさん持っていったのに、その後どこにも植えた様子がなくて、また受け入れてもらえなかったのかとガッカリしていたのだそうです。でも苗木は椿さんの目につかなかっただけで、実は山陰や水場に植えられて育ち、大きな木になってたくさんの実をつけていたのです。

宿に戻って、阪本さんや坂井さんと調査結果を伝えあうミーティングでこの話をしたところ、この話を日本人だけで共有するのはもったいない、村の子どもたちや村びとにも知ってもらって語り合えたらいいね、という話になり、「それなら絵本を作ったら？」というアイデアが出て、一座が盛り上がりました。

同じ飛行機で日本に帰ることになっていた阪本さんと坂井さんは、旅の途中で絵本のストーリーを練り下絵を描きました。日本に帰ってからもさらに、阪本さんのお子さんたちが、絵本のデザインを考えてくれました。

主人公椿さん紹介…坂井真紀子（東京外国語大学准教授）

椿延子さんは、絵本の中で村に遊びに来た日本のこども“ツバキちゃん”として登場しています。イマンジャマさんの絵をはじめて見たとき、思わず笑みがこぼれました。なぜって、そこにいる子は本当に椿さんそのままなのです。イマンジャマさんの本質をつかむ力はすごいですね。

普段の椿さんも、いつもトットコトットコ村を歩いて、いろいろな人とおしゃべりして悩みを聞いて、どうしたらいいだろうと頭を悩ませ

ています。普段はとてもシャイで寡黙、でもいいアイデアを思いつくと体が勝手に動き出している。椿さんはそんな人です。

私が椿さんに初めてお会いしたのは2010年、私にとって初めてのタンザニア滞在のときでした。当時私は、当然ながらスワヒリ語は全くの初習者、椿さんに金魚のフンのようにくっついていろいろなところに連れて行っていただきました。ご家族にも大変お世話になっています。

椿さんは北海道の蘭越町出身。大学で栄養学を学んだあと、初期の青年海外協力隊の栄養士としてタンザニアに赴任しました。協力隊を終えたのち、農学校で教鞭や日本の環境NGOの事務局として、ドドマで植林や適正技術の普及を長年行ってきました。『ニョタのふしぎな音楽』は、そうした椿さんのご経験がベースになっています。

現在は、バオバブ、モリンガ、ロゼーラ（ハイビスカスの一種）などの有用植物を地元の人たちから買い取り、葉・根の粉末や種の搾油などの加工と販売をしています。

ニョタの音楽について…鶴田格（近畿大学教授 情報提供）

ゴゴの人たちは、農業を営むには限界に近い半乾燥地で、農耕と牧畜を営んで暮らしています。一般には、ゴゴ人は経済発展からとり残されたマイナスのイメージが強いのですが、そのユニークな音楽ははやくから音楽学者の注目を集め、また全国的に知られてきました。

社会主義時代には、植民地時代には軽蔑されてきたアフリカ的な民俗芸能を振興するために、各地方で音楽コンテストがさかんに行われました。そうしたなかで、生活のなかで自分たち自身が楽しむために（あるいは儀礼的な目的で）行ってきた芸能が、舞台のうえで専門家集団が聴衆にむけて演じるエンターテインメントに変化したのです。

絵本に登場するのは、マジェレコ村のニョタ（「星」）という芸能集団です。マジェレコ村は、1970年頃に、社会主義的な集村化政策のもとで周辺住民が強制的に一カ所に移住させられてできた村です。それ以前のマジェレコ村近辺には雨乞いの音楽musunyunhoを演じるたくさんさんのインフォーマルなグループがあったのですが、政府主催の音楽コンテストに出場するグループとして1981年頃にニョタが正式に発足することになりました。

絵かきさんについて…Linda Katherine Kaneshiro (宇都宮大学国際学部 2年)

イマンジャマさんは、動物・子ども・女性を描き、平和を訴えるタンザニアの絵描きさんです。オンラインでイマンジャマさんとお話する機会に恵まれました。彼は、子どもたちにできることはしてあげたい、という夢について語りながら、一瞬上を見つめていましたが、わたしは彼の輝いている目に感動しました。イマンジャマさんの「わたしたちは生まれながらに芸術家である」という言葉は一生忘れられず、機会があったことを心から感謝し、彼の夢が叶うのを応援しています。

イマンジャマさんをご紹介頂き、学生とのZoom交流も設定頂いた金山麻美さんからも、イマンジャマさんのやさしい、そして信頼できる人柄をご紹介頂きました。

宇都宮大学・東京外国語大学学生サポーター活動 森裕翔 (宇都宮大学国際学部 2年)

学生サポーターの活動として、宇都宮大学では、絵本プロジェクトのSNSアカウントの作成・運営、CFのリターンであるAsanteカードの作成・印刷やリターン発送作業を行いました。プロジェクトや本シンポジウムを通して、タンザニアや国際協力について知ることができ、貴重な経験になりました。

陰山真依 (東京外国語大学 1年)

東京外国語大学でも、Asanteカードの作成・印刷やリターン発送作業に加えて、外語祭でも絵本の販売をしました。安くないにもかかわらず、共感して購入・応援して下さい下さった方々の気持ちに感謝しています。

サポーターからの絵本の感想

Next PublishingのPOD絵本をお送りしたサポーターのみなさんからも感想を頂きました。

「色味を抑えたイマンジャマさんの描いた絵がこのお話ととても合っていると思いました。手元にあると嬉しい気分になる絵本ですね。歌い出してくれそうな気がします。」(金山麻美さん)

「届いた絵本を早速拝見しました。淡い色づかいがとても印象的で、特に空の色がどのページも魅力的ですね。最初のページにある、ツバキちゃんとタビアちゃんが会おうシーンの画が、一番気に入っています。ニョタの音楽も聴いてみたくなりました」(清水奈名子先生)

「絵本を拝見しましたが、絵がとてもユニークで、内容も素晴らしいと感じました。この絵本が、世界中の子供達に愛読されることを願っています。」(横田信三先生)

タンザニアへ

サポーターの皆さまにお送りした絵本を、タンザニアにも出版前のサンプルとして贈りました。郵送事情やネットワークの事情もあり難航しましたが、イマンジャマさんに届き、出来に満足頂きました。ドドマの椿さんの元にも届き、椿さんの仕事を手伝ってくれているマイケルが、今後、マジェレコ村などの小学校に届けてくれる予定です。これから確実に子どもたち、小学校に贈る活動が大切になってくるので、慎重かつ確実に届けたいと思います。

絵本の出版について

三恵社さんと丁寧な校正を繰り返し、著者・訳者ともに満足ができるような本に出来上がりました。12月20日販売予定です。シンポジウムにご参加のみなさんにも是非、手に取って頂き、ご感想をお寄せ下さい。

応援の声、質疑応答

参加者からは、シンポジウム最中もシンポジウム後のアンケートでもあたたかい応援の声を頂き、元気づけられました。アンケートでは、回答者全員17名がシンポジウムを「楽しめた」（10名）、「とても楽しめた」（7名）、全員が『ニョタのふしぎな音楽』を「とても読みたくなった」（10名）、「読みたくなった」（7名）と回答頂きました。アフリカに親近感を持った人もほとんどで「とても持った」（9名）、「持った」（7名）、宇都宮大学国際学やCMPSに関心を「持った」（13名）、「とても持った」（2名）人も多くいました。

アンケートで頂いたご意見も一部抜粋します。

- 豊かな交流から生まれた素晴らしい成果ですね。心より敬意と祝意を表します。お話を伺っただけで豊かな気持ちになりました。ありがとうございます。読ませていただくのを楽しみにしています。スワヒリ語での朗読を聞いてみたいです。
- ちゃんと当初からの思いを实らせ絵本として成就したのは素晴らしいと思います。若い学生さんたちの力もとても頼もしいと思いました。タンザニアと日本を繋ぐプロジェクト、未来に希望が持てそうです。
- 学生さんたちが、生き活きと活動に参加していることが改めて伝わってきて、嬉しくなりました。
- 学生さんが司会進行というのがよかったです。絵本が現地に届いてからの村の人たち、

子どもたちの感想を楽しみにしています。読み聞かせ動画は、スワヒリ語と英語は公開していると思いますが、日本語は、まずは絵本で楽しんでほしいですね。いろいろな方とタンザニアのことを共有でき、幸せな時間でした。アサンテサーナ！

- タンザニアを学ぶ学部学生たちへのアドバイスですが、英語は当然のこと、やはりスワヒリ語は必須だと思います。スワヒリ語はアラビア語と違い、アルファベットです。是非、タンザニア地域を学ぶ学生にはスワヒリ語を勧めていただきたいと思います。
- 地方の小さな町に住んでいても、新鮮な形でいつもと違う世界を知るきっかけをいただけてありがたいです。主催の先生方、一緒に活動されている学生のみなさん、人と人のかわりの中から生まれるすてきな取り組みを、これからもぜひ発信していただきたいと思います。ありがとうございます。
- 費用を集めるためのCFのことも知らず、たしか、学会からの案内メールでこのシンポジウム開催を知り、それで初めて絵本のことを知ったので、もっと早くからプロジェクトに参加したかったという気持ちになりました。でもドドマのことをいろいろ思いだして、懐かしく思い、絵本もぜひ取り寄せて読もうと思います。ありがとうございます。
- 絵本は是非購入したいと思いました。タンザニアには数回出張で訪れJATAツアーにもお世話になったことがありました。個人的には大分前にケニアに2回駐在しましたが最近では東アフリカに行く機会がなく、今年は10月から1か月半セネガルに出張するなど別地域とのかかわりが多いです。...皆さん色々ここまで大変だったと思います。大変お疲れ様でした。そしてシンポジウム有難うございました。
- 本を読んだ人には、外来の有用植物だけでな

く、在来の有用植物の活用にもぜひ意識を向けてほしい。

- 今日は楽しい時間をありがとうございました。ハードカバーの絵本になると、子どもが手に取りやすくなりますね。図書館などに置いていただき、色々な方の目に触れるようになってほしいですね。

謝辞

絵本に共感して下さった137人+3人=140人のサポーターのみなさま、ReadyFor CF支えてくれた木全由規さん&学生サポーター、絵かきさんのイマンジャマさんとそのご縁を繋いで下さった根本利通さん・金山麻美さん、スワヒリ語訳を引き受けて下さった竹村景子先生、ニョタのDVD等を提供して下さった鶴田格

さん・小林直明さん、スワヒリ語Native checkを引き受けて下さったZainabu Kassu Isack先生、ドドマで椿さんとの連絡を繋いでくださっているMichael Wilson Chimosaさん、Casmir Gondo Nzullungeさん、理解・応援して下さいシンポジウムに参加下さった皆様、宇都宮大学国際学部ならびにCMPSの皆様、本当にありがとうございました。

出版図書

阪本公美子・杉山祐子・坂井真紀子著、竹村景子スワヒリ語訳、フランシス・パトリック・イマンジャマ（ルーバス）絵（2021）
『ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで～』三恵社

『ニョタのふしぎな音楽 ～タンザニアの星空のもとで～』

さかもとくみこ・すぎやまゆうこ・さかいまきこ作

Francis Patrick Imanjama (Lubas) 絵

たけむらけいこスワヒリ語訳

三恵社出版

出版記念シンポジウム

日時：2021年12月19日（日）

開場13:30 開始：14:00-15:30

場所：Zoomオンライン

*** 無料、先着300名 ***



◇コンテンツ◇

- ・ 絵本の舞台
タンザニア半乾燥地ドドマ
- ・ この絵本をつくるきっかけ
- ・ 主人公・椿さんの紹介
- ・ ニョタの音楽について
- ・ 絵かきさんについて
- ・ 宇都宮大学・東京外国語
大学学生サポーター活動
- ・ 絵本の出版について
- ・ 応援の声、質疑応答

以下リンクまたはQRコードにて
事前登録をして、ご参加ください。
<https://qr.paps.jp/cmQ61>
登録後、ミーティング参加に関する
情報の確認メールが届きます。



問い合わせ先：
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
TEL 028-649-5228（平日9:00～16:00）
メール：tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL <http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/>

『ニョタのふしぎな音楽』について
Readyfor: <https://readyfor.jp/projects/61033>
Twitter: @tanzania_ehon
Instagram: @ehon_project
Facebook: <https://www.facebook.com/ImanjamaSakamotoSugiyamaSakai>

企画＆登壇
阪本公美子（宇都宮大学国際学部教授）
杉山祐子（弘前大学教授）
坂井真紀子（東京外国語大学准教授）
Linda Katherine Kaneshiro（宇都宮大学国際学部2年）
森裕翔（宇都宮大学国際学部2年）
田村望（宇都宮大学国際学部2年）
陰山真依（東京外国語大学1年）

主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
共催：三恵社